

平成 29 年度 森林研究・整備機構営事業 事後評価 技術検討会
農用地総合整備事業「黒潮フルーツライン区域」 議事概要

1. 実施日 平成 29 年 7 月 4 日(火) 10:00~12:00

2. 場所 農林水産省 本館地下 1 階 会議室

3. 出席者 技術検討会委員 浅野 耕太 京都大学大学院教授
飯田 俊彰 東京大学大学院准教授
岩本 恵子 みなべ町商工会 理事
橋本 禅 東京大学大学院准教授

(敬称略、五十音順)

事務局等 農林水産省農村振興局整備部農地資源課調査官 他
国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター
農用地業務室長 他

4. 技術検討会の概要

(1) 委員長の選出

浅野委員を選出した。

(2) 「関係団体の意見」の報告及び「事後評価書(案)」について

事務局より説明を受け、質疑を行った。

(3) 意見・指摘等

技術検討会の意見として、次のとおり取りまとめた。

南高梅をはじめ、スターチス、えんどうなどが全国有数の産地となっている本地域において、本事業により整備された農用地や農業用道路は、地理的条件を活かした産地の競争力強化、農産物流通の改善に寄与し、地域の活性化に大きく貢献するものと評価できる。

(農用地整備)

区画整理により、区画の整形・拡大、耕作道や用水施設等が整備されたことにより、機械作業が容易となり、農作業の効率化、営農経費の節減に貢献している。

また、区画整理に伴い実施した換地により、河川改修に必要な用地を生み出し、県営事業により河川が改修されたことで洪水被害がなくなり、裏作の増加を可能とした。

暗渠排水により、排水不良が改善された農地では、多様な野菜や花きの作付けが図られるとともに、農用地造成により生み出された緩勾配農地では地域の特産物である「南高梅」栽培の作業性が大幅に改善され、生産性の向上に貢献している。

（農業用道路）

整備された農業用道路は、農産物輸送や耕作者の通作に係る時間短縮、林業作業の効率化とともに、隣接する御坊市や田辺市への買い物や通勤、通学など日常生活の利便性の向上に貢献している。

また、山間部を通る農業用道路は、大雨や津波等の災害時には代替路として機能することから、自然災害への備えにとどまらず、緊急搬送路としての役割も果たし、地域住民の生活の安心感の向上に寄与している。

（今後の農業振興や地域振興に向けて）

本地域では、梅のトップブランド「南高梅」、スターチスなど多様な農作物が生産されている。今後、世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」のブランドを活かした情報発信を行い、国内外の観光客増加を通じた消費・インバウンド消費・輸出の拡大や南高梅を中心とした6次産業化のさらなる発展を図ることが重要と考える。これにより、農家の収益性の向上が図られ、後継者が育成されることを期待する。

（費用対効果の算定手法における課題）

現在の費用対効果の算定手法においては、主要農作物や資材の価格変動の気候等による年々の過度の不規則性を考慮するための手順が十分に標準化されていないことが危惧されるので、この点については検討が必要である。

（以上）